

新刊紹介

◆『鶴見町誌』

平成十二年三月三十一日刊

B5判

一一五〇頁

本書の内容は、本文六編、資料編一編の計七編から構成されている。その構成、目次及び執筆者名をあげて、紹介したい。

第一編 自然と環境

第一章 自然環境

第二章 植物と自然

第三章 鶴見町の動物

第四章 人文環境

鶴見町



第二編 歴史と現代

第一章 先史・古代社会

第二章 中世社会

第三章 近世社会

第四章 近代・現代の歴史

第三編 発展する鶴見町

第一章 鶴見村の誕生

第二章 町勢の推移

第三章 行財政と議会

第四章 福祉保健

第五章 生活環境

第六章 産業の遷りかわり

第七章 教育と文化

第四編 民俗

第一章 人の一生

第二章 年中行事

第三章 生活の中の民俗

第四章 信仰・芸能

第五章 口承・伝承

第六章 漁具・民具

渋谷忠章

橋本操六

橋本操六

三重野勝人

神田音繁

(第一章―第六章)

塩月直穂

(町文化財調査委員の共同執筆)

広津留豊實

染矢 巖

神田亀吉

浜野芳弘

阿部 篤 加島恒孝

神崎松雄 神崎辰雄

井原伸芳

真柴茂彦

真柴茂彦

矢野彌生

第五編 社寺・文化財(町文化財調査委員の共同執筆)

第一章 神社

第二章 寺院

第三章 文化財

第六編 回想と展望

第七編 資料

特別寄稿・町内寄稿者

(町誌編纂室事務局)

真柴茂彦・西川洋一

渡辺実千代

各編の特色をあげると、第一編の自然環境では、動物・植物の節や項で、豊富に写真を用い、読者に自然の美しさ、神秘さなどが感じられるすばらしい内容。また、行事と植物・植物方言など鶴見半島の自然と人のふれあいなど他誌に少ない解説は魅力的である。これに対し、人文環境では地理(地誌)の観点から町の面積・人口・産業・集落・交通について多角的に多くの資料を駆使して平易に記述している。

第二編の歴史と現代では、先史・古代から近現代までの通史。先史・古代では遺跡など少なく、沖松浦大崎出の土器や地松浦志手出土の土器などが紹介されている。また、町の中世社会を物語る史資料も石造物を除いては

皆無に等しい。

近世では浦ごとの生活・漁業と生活・人々の生活と規制など、民衆の生活史を中心に記述されているのは高く評価してよいのでは。一般に大名や武士などの支配階級を中心にしたものが多い(史料の制約もあるが)。近現代では明治初期の教育(寺小屋から義務教育へ)が詳述され、鶴見半島の東端部に近い丹賀・梶寄や大島など小学校の第一歩を踏み出しており、佐伯に近い浦々での小学校創設時期が遅れているなど、興味深い記述が印象的である。

第三編の発展する鶴見町では、三村合併後の町の行政・社会・産業・教育などの推移と現況にかかわる分野を記述しており、現在の鶴見町の素顔を知るうえで貴重で重要である。また、人づくりの基礎になる教育と文化の記述に力点をおいた記述も注目される。

第四編の民俗では、人の一生・年中行事・生活の中の民俗・信仰と芸能・口承と伝承の五章から構成されている。戦後急速に変質をとげつつある漁村の生活状況を記録にとどめておくことは町民の生活を理解するうえで重要である。

第五編では社寺・文化財、第六編回想と展望とつづく。回想と展望では、戦時中の「シベリア抑留」や「沖縄戦」など町民の証言・小中学生による将来の夢などの寄稿文を掲載している。

□絵カラー一四頁(景観・行事・産業・動植物・史跡・祭り)。総監修橋本操六(大分県先哲叢書編さん審議会委員)・民俗・社寺・文化財の監修は小泊立矢(大分県立先哲史料館副館長)、歴史・人文環境については町外の執筆者に依頼している。この鶴見町誌の刊行を機に、同町が着実な足どりで発展することを期待するものである。(矢野彌生)

次の原稿締切りは
八月末日です。
原稿をお寄せ下さい。

— 会員研究発表会のお知らせ —

日時 7月9日(日) 10時~12時
会場 佐伯図書館
発表者 佐藤 巧

「鎌倉時代の佐伯一族と佐伯荘相伝の過程」

小野英治

「古図から見た佐伯城」

— 会員懇談会のお知らせ —

日時 7月9日(日) 12時~
場所 向島公民館2階
史談会について、食事をしながらみんなで懇談しましょう。参加の方は7月5日までに事務局または常任評議員に連絡下さい。 会費1,000円程度